

平成 24 年 12 月 1 日

朝晩だけでなく日中も寒い季節となりました。冬の寒い時期には、風邪やインフルエンザだけでなく、脳卒中にも気をつける必要があります。脳卒中とは、脳の血管がかかわる病気の総称で、日本人の死因の第 4 位です。その中で、約 60%が脳梗塞(脳の血管が詰まる病気)と言われています。日本では、40 歳以上の人口 10 万人当たり 600 名程度で脳梗塞が起こるとされています。

今回は、「脳梗塞」についてお話ししたいと思います。

●脳梗塞とは？

脳の血管内に血の塊(血栓)ができたり、心臓にできた血栓が脳に流れていった場合、血管をつまらせることがあります。すると、その先の脳細胞に血液が送れなくなり脳細胞は酸素と栄養が不足します。酸素と栄養不足が続くと脳細胞は死んでしまい、これを**脳梗塞**と言います。脳梗塞が起きた場所によって、運動マヒ、しびれなどの知覚障害、ろれつが回らなくなる(構音障害)、言葉が出てこなくなる、話が理解できなくなる(失語症)などの色々な症状が起こります。急に寒い場所に出るなどして血管が収縮すると、脳梗塞の症状が出やすいので、冬は注意が必要です。

◆原因

血栓は、不適切な食生活、運動不足、睡眠不足、ストレス、飲酒、喫煙などによる生活習慣病(高血圧症、高脂血症、糖尿病など)によってできやすくなり、また心臓の血管に関わる病気によってできることもあります。

◆発症

初めの症状は、突然手足に力が入らなくなったり、しびれが起こったりすることや突然意識がなくなるなど様々です。脳梗塞の症状は初めが最も強く、この期間を急性期と呼びます。



〈急性期の治療法〉

- ・発症後 4.5 時間以内の場合は、血栓を溶かす**グルトパ/アクチバシン**を使います。
 - ・発症後 24 時間以内の場合は、脳が酸素不足や栄養不足になると出てくる脳細胞を傷つける物質(フリーラジカル)を抑える**ラジカット**を使います。
- 発症 24 時間以降の場合でも、お薬や外科的治療はありますが、いずれにしても**早期発見と発症後の早急な治療**が必要となります。

◆経過

約 10%の患者さんは治療を受けたあと障害を残すことなく完全に回復すると言われていますが、70%以上の患者さんが何らかの後遺症のためにリハビリが必要になります。

●脳梗塞(慢性期)の治療

【お薬の治療】

一度脳梗塞になると血栓ができやすくなるので、再び血栓ができないようにお薬を使います。

◎抗血栓薬

体に備わっている、血液を固める能力を少し弱めて血栓ができるのを予防し、さらに脳梗塞が起きるのを防ぎます。出血が止まりにくくなるため、病院や歯科の受診時には薬を飲んでいることを必ず医師・歯科医師に伝えましょう。血小板の働きを抑える薬、止血に関わるビタミン K の働きを抑える薬、止血に働くタンパク質(トロンビン、第 Xa 因子)に直接作用して止血反応を抑える薬があります。

血小板の働きを抑える薬	バイアスピリン/プレタール/パナルジン/プラビックスなど
ビタミン K の働きを抑える薬	ワーファリン
トロンビン、Xa 因子を抑える薬	プラザキサ/イグザレルト

◎脳循環代謝改善薬・・・ケタス、セロクラール、サアミオン、シンメトレル

脳梗塞による血流障害を改善します。場合によっては脳梗塞による後遺症(めまい、意欲低下など)に有効な場合があります。

◎生活習慣病改善

高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病が脳梗塞の原因となる場合があります。このような場合には、生活習慣病の治療薬とともに食生活や生活習慣の見直しが必要となります。

【リハビリテーション】

- ・手足のマッサージ、歩行訓練や動作訓練をすることで動かしにくくなった部分の回復を図ります。また言語障害のリハビリもあります。
- ・後遺症があっても日常生活(食事、書字、洗面)を送るための訓練も行います。たとえば利き手がマヒしていても、逆の手で日常生活が送れるようにします。



【手術の治療】

原因となる血管の場所によっては、手術を行うこともあります。

- ・頸動脈内膜剥離術: 血管を塞ぐ血栓を取り除きます
- ・頸動脈ステント留置術: 動脈硬化などで細くなった血管に、金属製の筒を血管内に入れて血管を内側から広げます

【参考】

- ・「今日の治療指針 2010」
- ・脳卒中治療ガイドライン 2009
- ・特定非営利活動法人標準医療情報センター(<http://www.ebm.jp/>)